Kanazawa University

金沢大学中国語学中国文学教室紀要
第6輯2003年1～29

強調を表す“连～都”“连～也”の差異についての考察

遠　藤　佳代子

0．はじめに

本稿は現在ではほとんど区別することなく使用されている“连～都”と“连～也”について、中国人の語感をもとに分析し、より明確な差異を見出そうとするものである。なぜならば、本論文は「異なった言語形式には必ず異なった意味が付託されている」という意味論的観点に立つからである。

1．先行文献における“连～都”と“连～也”に関する言及

1.1 “连～都（也）”の辞書的意味

中国語における“连～都（也）”は日本語においては、通常「さえ」「まで」と訳される強調表現である。次の例文を見て欲しい。

（1）这件事情连他也不知道。　（このことは彼さえも知らない）

（2）这个问题连小学生也能回答。（この問題には小学生でさえ答えることができる）

（3）他连星期天都不休息。　（彼は日曜日さえ休まない）

いずれの例文においても、“连～都（也）”表現は“他”、“小学生”、“星期天”などの話し手が自らの認識に基づいて突出していると考える事例を取り立て、他は言うまでもなく同様の状態であるということを強調していると考えられる。この同様の状態は述部によって表現され（上の例においては“不知道”、“能回答”、“不休息”にあたる。）、その述部は“连～都（也）”を使う場合に必要な文脈上の情報である。本稿ではこの

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

述語が“连～都（也）”によって取り立てられた事例と言語外に（あるいは言語内：言語化されて表現される場合もある）それと同様の状態であるとされる「他の事例」を結束させ一つにまとめる作用を持っていることから、これを「テクストテーマ」と呼ぶことにする[1]。例（1）において、話し手は「彼」を情報通若しくは博識として認識しているのであり、その彼でさえ知らない（テクストテーマ）のだからまして自分などは知っているはずがないということを言語外に述べている。例（2）では、学力の低い小学生でさえ解くことができる（テクストテーマ）のであるから他の人はいうまでもない、更にはそれほど「この問題」が簡単であるということを述べたいのであり、例（3）では大抵の人が休む日曜日でさえも休まない（テクストテーマ）「彼」の勤勉さを、あるいは日曜日さえも休むことができないという彼の忙しさを言語外に述べているのである。

このように“连～都（也）”にはただテクストテーマにかかわる事例を取り立て強調するという働きだけではなく、それによって様々な情報を聞き手に言語外に訴える働きも持つものと解釈できる。

1.2 “都”と“也”の互換問題に関する先行研究

この“连～都（也）”表現は、ほとんどの辞書や中国語の教材において、先に述べたような働きを持つ強調表現として説明されている。しかし“连～都”と“连～也”の差異にまで言及しているものは数少ない。ほとんど

---

1 寺村氏は著書『寺村秀夫論文集Ⅰ－日本語文法論』の中で、並列的接続を表す「も」を説明する際に、「影の統括命題」という言葉を使用している。『「京都や奈良や…へ行きました」と言うならば単に行った先の一部を列挙しているに過ぎないが、「京都も奈良も広島も行きました」と言うならば、話し手と聞き手がそれらの場所を旅行に行ったなら行くであろう場所と了解していることが前提となる。「も」はある意義付け（この場合、旅行に行ったなら行くであろう）でくくられたセット（京都・奈良・広島）が了解されておりそのメンバーが揃っているということを言う際にそれらをつなぐ形式である。』彼はまたこの「ある意味付けでくくられたセット」というのは「ある述語を共有する補語（いろいろな格に立つ名詞句）のセット」というのを一般的に言ったものであるとしている。したがってこのような考え方は筆者の言う「テクストテーマ」の考え方に似ていると思われる。

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

の場合“连～都”と“连～也”は同義に扱われ、“都”と“也”は自由に互換される。さらに日本語へ翻訳する場合においても、いずれも例（1）～（3）のように「さえ」と訳されてしまう。

しかしながら“连～都”と“连～也”について考察した先行文献が全くないわけではない。马真は『说“也”』（『中国语文』1982）の中で、“连～都（也）”表現における“都”と“也”の互換問題について若干考察を加えている。

（4）a．连他也来了。

b．连他都来了。

马真の考察によると、“连～都（也）”表現において“都”と“也”いずれを採用するかによって話しの角度が異なるという。すなわちテクストテーマ“来了（やってきた）”にかかわる事例（原則として言語化されないが言語化される場合もある。これを「前提事例」と呼ぶ）のどれを採用するかという点において異なっている。『例（4）aは、最も来ることのできない「彼」がついに一般人と同じようにやってきたということ（筆者の用語によれば、「一般人はやってくる」という事例がこの場合における「前提事例」である。）を説明し、この“也”は“来了という点における類同を表している。例（4）bは、あるグループの中で最も来ることのできない「彼」を代表として取り上げ、このグループの成員は一人の例外もなく全員やってきたということ（筆者の用語によれば、「そのグループの成員はやってこない」という事例がこの場合における「前提事例」である。）を強調して説明し、この“都”は総括を表している。』

この马真の解釈を筆者の用語で捉えなおすならば、例（4）aの「類同」は例（1）～（3）と同様に取り立て強調である。しかし例（4）bの「総括」においては、「前提事例」はテクストテーマ（“来了”）を反転させたものであり、例（4）aの取り立て強調とは意味的特徴を異にするのである。以下本稿では、単文内の「総括」と「類同」という副詞的文法特徴に注目した马真の考察よりも意味的考察の対象を広げて、テクストテーマと前提事例の相互関係を中心に論じていくことにする。

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

1.3 先行研究の問題点からみる本稿の課題

马真は“连～都（也）”表現における“都”と“也”の互換問題に関して、それぞれの副詞としての本来の意義、すなわち「総括」と「類同」に着目して分析している。介詞“连”がもともと全く異なる意義を持つ副詞“都”と“也”と呼応して使用される以上、全くの同義であるとは考えられない。従ってこの表現が生まれた当初は马真の分析のように、副詞“都”と“也”の意味によって使い分けられていたのかもしれない。しかし時を経るにしたがって副詞本来の「総括」と「類同」という意味は薄れ、現在の“连～都（也）”表現の情況を見るに、もはやそれだけでは説明がつかないように思われる。

したがって次に副詞“都”と“也”の用法を簡単にまとめ、副詞本来の意味のうち、主に話し手の主観的側面、すなわち語気副詞としての用法が「テクストテーマ」と「前提事例」とどう関わるかに対してスポットをあて、“连～都”と“连～也”の差異を分析していきたいと思う。

2．副詞“都”と“也”[2]

2.1 副詞“都”の用法

副詞“都”には二つの用法があるとされてきた。代表的なのが総括を表す範囲副詞としての“都”である。次の例文を見て欲しい。

---

2 朱德熙の『语法讲义』では範囲副詞“都”と“也”について次のように解釈している。『“也”も“都”と同様に前にある語句の範囲を提示するものである。違いは“都”が総括を表すのに対して、“也”が分
説を表すところにある。次の例を比較されたい。

a．小张和小李都是湖北人。　　［張君と李君はともに湖北の人だ］

b. 小张是湖北人 小李也是湖北人。［張君は湖北の人で、李君もまた湖北の人だ］　』

すなわち例aでは「湖北の人である」という述語を共有しているが、例bではそれぞれが述語を持って
いる。これが総括と分説であると思われる。

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

（5）到瓜市，果市，菜市去拉货物，都是他们。　　（『骆驼祥子』）

（6）去不去都由你自己决定。

（7）四面都是鲜花。

例（5）において“都”は“到瓜市，果市，菜市去拉货物”を総括し、瓜市・果物市・野菜市に荷物を引いていった者達がすべて「彼ら」であることを述べている。例（6）においては、“都”は“去不去”を総括し、行こうときめることも行くまいと決めることも両方ともあなたの意思にゆだねるということを述べている。同じように、例（7）についても“都”は前面の“四面”を総括し、辺り一面すっかり花に覆われていることを表している。

このように、“都”は“瓜市，果市，菜市”のように列挙された事項や“去不去”のように対立する二項あるいは“四面”のようなある時空を示す事項を総括する。この総括とは筆者の用語によれば、テクストテーマ：“是他们”、“由你自己决定”、“是鲜花”によって結束させられた複数の事例から取り立てられた焦点情報（個々に言語化された事項）が例外なく、テクストテーマと同一の文法構造内で結びついてひとつの叙述を成立させる。これが範囲副詞“都”と呼ばれるものである。

さらに“都”は全く別の働きをすることがある。これが第二の“都”、すなわち語気副詞“都”である。

（8）他都不认识这个字。

（9）他都忘了今天是他的生日。

（10）他都是大学生了，怎么连个礼貌都不懂。

（11）都是你，把电视机弄坏了。

（12）都夜里十点了，办公室有很多人。

語気副詞“都”はあってもなくても文の成立には何ら支障がないものである。しかしその文が持つ言語外の情報量は全く異なってくる。例えば、例（8）は“都”がなければ「彼はこの字を知らない」という単なる事実の叙述にすぎないが、“都”を用いることによって「この字」がそれほどまでに極端に難しい文字であること、あるいは余り使われていない鄙びた

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

文字であることなどを言語外に聞き手に伝えているのである。また例（9）についても“都”を用いることによって、単なる字面上の叙述にとどまらず自分の誕生日さえ忘れてしまうほど忙しい、あるいは物忘れが極端に激しいなどの言語外の情報を内包することができる。

次の例（10）～（12）における“都”は情報の極端さというよりはむしろ話し手の感情を言語外に表出する働きをしている。例（10）における“都”は、マナーの一つも知らないというテクストテーマに対し、大学生にもなる「彼」に対する非難を、また例（11）では“都”は“是”と併用され、テレビを壊したというテクストテーマについて、その責任がすべて「あなた」にあるのだということを強調し更に強い非難の感情を表している。さらに例（12）では、事務所にたくさんの人がいるというテクストテーマについて、本来なら夜の十時ともなれば事務所に人などいないはずなのに、予想外に人がたくさんいたことに対するいぶかしみ、あるいはこのように遅い時間まで働いていることへの賞賛などといった感情を聞き手に伝えようとしている。この場合例（10）と（11）に関しては、テクストテーマがもつ内容のせいで言語外に表出される感情がマイナス感情に限られるが、例（12）の場合は文脈によってマイナスにもプラスにもなるという特徴がある。

このように副詞“都”には総括を表す範囲副詞“都”としての用法のほかに、命題またはディクタムとしての意味[3]（字面上の意味）はあってもなくても変わらないが、言葉にでないたくさんの情報や感情を積極的に代弁しようとする語気助詞“都”としての用法がある。

2.2 副詞“也”の用法

副詞“也”にも二つの用法があるとされてきた。まず马真が指摘した「類同」の用法を検討する。

（13）他去过中国．我也去过中国。

---

3 語気あるいはムード、モダリティーと対立する文法概念である。

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

(14) 他喜欢打棒球. 也喜欢踢足球。

(15) 风停了. 浪也小了。

马真の用語によれば、例 (13) において“也”は“去过中国” (中国へ行ったことがある) という点で「私」と「彼」が類同化されたことを示す。例 (14) では「サッカーをすること」と「野球をすること」が“喜欢” (好きだ) という点で類同化されたことを示している。筆者の用語によれば、“去过中国”、“喜欢”というテキストテーマに対して“他”と“我”、“打棒球”と“踢足球”という取りたてられた焦点情報 (個々に言語化された事項) が、同一のテキストテーマを有していると認知され、複数の一連の事例として関連づけられたとことになる。さらに例 (15) に関しては、马真は次のように述べている。『“浪小了”と“风停了”というのは相互に関係する二種類の自然現象であり、穏やかになる、弱まるという点で互いに類同である。』

この見解を筆者の用語でとらえなおすならば、天候がよくなったという事実が言語外に同一のテクストテーマとして存在すると認知されたために二つの個別の事例が関連づけられたことになる。

副詞“也”にも副詞“都”と同じく語気副詞としての用法がある。

(16) 你也太客气了。

(17) 情况也不一定会像你说的那样吧!

語気助詞“也”もあってもなくても文の成立には何ら支障がない。しかしそのニュアンスや聞き手に与える印象は全く異なってくる。例 (16) は、例えば家を訪ねてきた客人が手土産を持ってきてくれた場合など対して使用する言葉であるが、もしも“也”を用いなければ、本来わざわざ手土産まで持ってきてくれた客人を気遣う親切なこの言葉も、いささか堅苦しくともすれば「気に入ってもらえなかったのだろうか」という不安さえ与えかねないものとなってしまうおそれがあるのだ。例 (17) も、自分の考えに固執しがちな友人をちょっと諌めようとしただけなのかもしれないのに、“也”を用いないことによって口調が固く非難がましくなり逆に相手を怒らせてしまうことにもなりかねない。

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

このように副詞“也”には類同を表す用法だけでなく、聞き手に不快感を与えないように婉曲的なニュアンスを加え、語気を和らげる語気副詞としての用法もあるのである。筆者の用語によれば、語気を和らげる作用は、“也”によって言語外のテクストテーマとしての「一般的な慣習や判断のあり方」が設定され、それに関連付けられることによって生じると解釈できる。つまりその文の表す事例が特に珍しいものではないし、通常よくある事例の一つだということを示すことによって、その事例に対してもつ話し手の感情を拡散するのである。

2.3 副詞“都”と“也”の基本用法から考える“连～都”と“连～也”の差異

以上副詞“都”と“也”の基本用法についてまとめてみた。“都”と“也”の基本用法というと大抵「総括」と「類同」に注意が向いてしまいがちであるが、“连～都”と“连～也”の差異を分析するにあたって、特に語気副詞としての用法に注目し常に意識にとめておくことが大変重要だと思われる。先にも述べたように、“连～都（也）”表現は話し手の主観的側面、すなわち“连～都（也）”によって取り立てられた事例に対しどのような認識を抱いているかということに大きく影響されるものである。さらに範囲副詞としての“都”と“也”は決して互換することができないが、“连～都（也）”表現においてはよく互換されるという事実も注目に値すると思われる。

ここで改めて筆者による範囲副詞としての“都”と“也”の解釈をまとめておく。

範囲副詞“都”：テクストテーマによって結束させられた複数の事例から取り立てられた焦点情報が、例外なくテクストテーマとひとつの叙述を成立させる。

範囲副詞“也”：大抵の場合述語によって表現されるテキストテーマ（例(15)のように言語外に表現される場合もある）に対

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

して、取りたてられた焦点情報（主語や目的語などにより表現される）が同一のテキストテーマを有していると認知されたために一連の事例として関連づけられる。

以上の分析から考えるに、“连～都”と“连～也”の差異は马真のいうように範囲副詞の用法から来るものではなく、むしろ語気副詞としての用法から来るものなのではなかろうか。なぜならば、ディクタム的な意味を中核とする範囲副詞の意味の中から最も抽象的な話し手の主観によって左右される部分が語気副詞の意味として独立している可能性があるからである。

ここで筆者のこういう予想に基づいて、語気副詞“都”と“也”が“连～都”、“连～也”の用法の差異と意味の差異に及ぼす影響について仮説を立てておく。

仮説[“都”]→以下仮説Ｄとする。

言語外作用：非難やいぶかしみなどの感情やその他様々な情報を積極的に聞き手に伝えていこうとする。

“连～都”への影響：語気副詞“都”の作用により、強調と語気の程度は強められ、より多くの言語外の情報を持っていると思われる。

仮説[“也”]→以下仮説Ｙとする。

言語外作用：聞き手に余計な不安や不快感を与えぬよう、自分の感情を表出することに消極的である。

解釈：言語外のテクストテーマとしての「一般的な慣習や判断のあり方」が取り上げられることによって、事例に対する話し手の感情が拡散され、語気が弱められる。

“连～也”への影響…語気副詞“也”作用により、強調と語気の程

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

度は弱く、自分の感情を表出しようとしないため、“连～都”と比べ客観性を帯びていると思われる。

以下上記の仮説によってインフォーマント調査項目を立て、その調査結果を基に考察を進めていくことにする。

3．インフォーマント調査

3.1 インフォーマント調査の目的

“连～都（也）”表現は、話し手の認識を基礎として突出していると思われる事例を取り立て、他は言うまでもないということをあらわす強調表現である。その強調表現が成立するメカニズムは前項の仮説で推定した如く、“连～都（也）”表現における“都”と“也”によって表される話し手の主観的側面の差異に大きく影響されると予想される。そこでネイティブスピーカーに語感を内省していただく形でのインフォーマント調査を行い、その結果をもとに“连～都”と“连～也”における語気の違いや、話し手の認識の差異などに分析を加えることにした。

3.2 被験者について

インフォーマント調査をするにあたって、六人のネイティブスピーカーの方々に協力して頂いた。次にその六人の被験者の簡単な経歴を記す。

a．李炜东氏　(30代男性)

湖南省出身。北京師範大学中文系教師。20年間北京在住。

b．赵忠氏　(30代男性)

内蒙古出身。現在金沢大学経済学部。

c．李彩霞氏　(30代女性)

内蒙古出身。内蒙古師範大学卒。

d．张宏氏　(40代男性)

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

北京出身。合弁会社社員。

e．刘萍氏　　(30代女性)

北京出身。北京大学中文系教師。

f．王雅宁氏　　(10代女性)

山西省出身。金沢大学経済学部。

なお最後の王さんについては他の被験者達と年代の差が大きいため、本稿のテーマを考えるにあたって、参考程度にとどめるものとする。[4]

3.3 インフォーマント調査の内容と形式

インフォーマント調査に使用した例文については[附表Ⅰ]にまとめてある。例文は老舎の『骆驼祥子』と『四世同堂』から採用し、それぞれ“连～都”と“连～也”さらに比喩表現に分けた。

“连～都（也）”表現における“都”と“也”の互換問題は、いまやネイティブスピーカーの方にとってもそれぞれの語感の問題であり、はっきりとした差異を説明することは難しいようである。そこで、調査をするにあたっては、それぞれの語感をもとにａ．不可以互換（互換することができない）、ｂ．可以交换（意思差不多）（どちらでも同じ）、ｃ．“都”更好（“都”のほうが適している）、ｄ．“也”更好（“也”のほうが適している）のいずれかで答えてもらい、被験者の多数がａ．不可以互換あるいはｃ．“都”更好、ｄ．“也”更好と解答した例文を中心に更に詳しく分析を加えることとした。

４．調査結果とその考察

---

[4] 語感の差異は生まれ育った土地や生まれた年代などの違いによっても生じると考えられる。王さんのインフォーマント調査の結果が他の被験者と異なるところが多かったのは年代の違いに拠るものと思われる。微妙な内省報告を分析する場合被験者の言語経歴はできる限り同質であることが好ましい。本来は全員が北京在住歴の長いことが望まし

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

4.1 インフォーマント調査の結果を一覧表にまとめてみると、やはり被験者によってばらつきがあることがわかった。全体的に見ると、“也”よりも“都”が好まれる場合が多く、女性の被験者については“连～都”と“连～也”の差異を意識することが少ないようである。詳しくはうしろの附表を見てもらいたい。インフォーマント調査結果を考察するにあたっては、主に聞き取り調査を繰り返すことのできた李炜东氏の語感を中心に据えて行うこととする。

4.2 強調の程度からみる差異—「絶対的評価」と「相対的評価」

第2章でも言及したように、副詞“都”と“也”には語気副詞としての用法があり、それによって表される語気は全く異なるといっても過言ではない。そこでまず始めに先の仮説で述べた語気副詞としての働きが“连～都”と“连～也”にどのように影響しているのか分析してみようと思う。

まず次の例文を見て欲しい。

(18) a. 这个字连老师都不认识，更不用说我。

b. 这个字连老师也不认识，更不用说我。

この二つの文はいずれも「この字は先生でさえも知らない、まして私は言うまでもない（言うまでもなく知らない)。」と翻訳され字面上の意味は全く同じである。しかし二つの文が聞き手に与える印象は異なる。

例(18) aにおいて、“不认识”(知らない）という言語化されたテクストテーマと前提事例の関係は反転し、話し手は言語外の前提事例として「先生はなんでも知っていて当たり前」と捉え、その先生でさえ知らない文字を私が知っているはずもなく、またそれほどこの字が極端に難しいか、若しくは鄙びた文字であるかということを聞き手に伝えようとしているのである。つまりこの文は“连～都（也)”表現によって強調されるだけでなく、副詞“都”が含む語気によって二重に強調されているのである。

例(18) bにおいては、ただ「私よりは相対的にものを知っているであろう」

かったが、標準語についての分析という点については問題がないと考えられる。

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

存在たる先生が知らないのだから、私がこの字を知っている可能性は低いということを聞き手に伝えようとしているのである。つまりこの文は“连～都(也)”表現によって強調されてはいるが、副詞“也”によってその語気は緩やかなものとなり、強調自体も弱められている。

(19) 在城里混了这几年，只落得一身衣服和五块钱；连被褥都混没了！ (①－3)

(20) 庚子年的时候，日本兵进城，挨着家儿搜东西，先是要首饰，要表；连铜纽扣都拿走！

この二つの例文はインフォーマント調査に用いた例文であり、文末の数字は[附表Ⅰ]における番号である。これらの例文に関しては過半数の被験者が「ここにおける“都”は“也”と互換することができない」あるいは「互換しても構わないが、“都”のほうが適している」という判断をした。例(19)は、ごたごたしているうちに布団さえもなくなってしまったというのが字面上のおおよその意味であるが、語気副詞“都”の作用によって、「布団」というものが生活していく上でなくてはならないものであるいう言語外の前提事例を聞き手に示した上で、話し手が“混没了”というテクストテーマについてその反転事例である「売り払えない布団」さえ売り払った困窮した生活の有り様を強く強調しているのである。例(20)においても、「略奪する」というテキストテーマに対し、“都”は「二束三文にもならない銅ボタン」という反転事例さえそれに該当したという、話し手の略奪に対する非難の感情を表出している。

(21) 这个黑胡子老头儿不会打人，连自己的儿子也不会去打。

この例文に関しては五人の被験者のうち四人までが“都”と“也”どちらでも構わないという判断を下しているが、李氏だけがこの例文における“也”は“都”に互換できないとした。これまで述べてきたように副詞“都”と“也”には話し手の認識の程度を聞き手に伝える作用がある。もう一度例(18)の二種類の例文を見て欲しい。例(18) a では話し手は先生をなんでも知っている「べき」存在として捉えているが、b では自分「より」物を知っている存在として捉えている。すなわち“都”は「べき」「はず」というように、話し手がある事例に対し絶対的な評価を持っていることを表すのに対し、“也”は「より」

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

というように、話し手のある事例に対する相対的な評価を表しているのである。従って李氏の見解に拠れば、“都”を用いると、話し手が自分の子供などというのは殴ることができて当然であるという認識を持っていることになり、少し奇妙な感をぬぐえないという。

“都”による絶対的評価と“也”による相対的評価という認識の基準の相違は語気の相違とも関連性があり、また言及することのできる人物に制約を加えることもある。次の例文を見て欲しい。

(22) a．你连算加法都不会，更不用说乘法。

b．你连算加法也不会，更不用说乘法。

この二つの例文の字面上の意味は「あなたは足し算さえできないのだから、まして掛け算など出きるはずがない。」という意味である。しかし「あなた」に当てはめることのできる人物は“都”と“也”の作用によって制約を受ける。

例（22）aにおいて、「できない」というテクストテーマと前提事例との関係は反転し、話し手は言語外の前提事例として「足し算はできて当然」という絶対的評価に値する「あなた」を想定している。したがってできて当然のことのできない「あなた」に当てはめることができるのは、本来的には「計算することのできる」能力を持っていなければならない人物、すなわちテキストテーマと反転する人物に限られる。例えば極端な例を挙げるならば、「あなた」が大学生である場合などである。その時始めて語気副詞“都”としての作用、すなわちできて当然のことさえできない「あなた」への非難の語気が活かされて、より強くはっきりとした強調表現となるのである。

では例（22）bの場合はどうであろうか。これにおいて話し手は足し算を掛け算より簡単であると認識するにとどまる。つまり足し算を相対的に評価し、より簡単な足し算ができないのならば、掛け算は無理だろうと考えているのである。従ってbにおける「あなた」は一般にできなくても仕方がないと思われている人物である。この“也”での前提事例とテクストテーマの関係には段階差があっても反転はない。例えば、幼稚園生の場合、なかには足し算ができる子はいるかもしれないが全員ができるとは限らない。もともと足し算をする能力がないものに対して、“都”を用いて掛け算ができないと非難するのは酷であ

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

る。そこで語気副詞“也”によって、「できない」というテクストテーマが決して特殊な事例ではなく、通常よくある事例の一つであるとして話し手の感情を拡散することにより、強調の程度を下げ語気を和らげるのである。

上述のように、“连～都（也)”表現において、まず“都”と“也”の語気副詞としての作用が話し手の認識の程度を聞き手に伝達し、さらに強調の程度や語気にも影響することがわかった。“都”は話し手があるテクストテーマに関して“连～都（也)”表現によって取り立てた事例に対し、「べき」「はず」という絶対的評価を下していることを聞き手に知らしめ、さらに本来持っている非難や予想外などといった語気を積極的に作用させることによって、強調の程度を強め、より多くの情報を聞き手に与えようとするものである。それに対して、“也”は話し手が「～よりは」という相対的評価を下していることを聞き手に伝え、さらにテクストテーマを一般化することによって話し手の感情を拡散し、語気や強調の程度を弱め、聞き手に不快感や不安を与えぬようにしようとするものなのである。

この「絶対的評価」と「相対的評価」という基準によって見られる“连～都”と“连～也”の差異は仮説ＤとＹを充分に裏付けてくれるものであると思われる。

4.3 誇張描写と事実描写

まず次の例文を見て欲しい。

(23) a．那坐山是秃山，连棵草也没有。

b．那坐山是秃山，连棵草都没有。

この二つの例文は、字面上はいずれも「あの山は禿山だ、草の一本さえない」という意味であるが、聞き手の受け取り方に違いがある。李氏の見解に拠れば、このような場合“也”を用いると事実を強調して描写しているのに対し、“都”を用いると事実そのものの描写ではなく一種の推論であるという。つまり、(23) aにおいては、話し手はあの山がはげ山であり、本当に草の一本も生えていないという「事実」を聞き手に伝えようとしているのであり、その「事実」を“连～都（也)”表現によって強調しようとしているのである。しかし (23)

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

bに関して、話し手は本当にその山が草の一本も生えていない文字通りのはげ山であることを知っているわけでも、またそのような意味で言っているわけでもない。話し手が持っているのはあの山がはげ山であるという「認識」であり、「はげ山」という言葉から連想した「草の一本さえも生えていない」という表現により（一般に「はげ山」と呼ばれるものが本当に一本の草も生えていない山だけをさすわけではない)、あの山がはげ山であることを誇張してより強く強調しようとしているのである。

(24) 地上时时有些小风，吹动着残枝枯叶，远处有几声尖锐的猫叫。祥子的心里由乱而空白，连这些声音也没听见；

この例文では、李氏の語感によれば“也”のほうが適しているという。本来「風の音、枝に残っている枯葉のざわめく音、遠くで鳴いている猫の鋭い声」などは他の音と比べて小さく聞こえにくいものであるが、もしも“都”に言いかえてしまうと、「聞こえてしかるべき音」として反転事例のように捉えられてしまい、更に祥子の心理描写にもつながっていると思われる前面の描写が“都”の強すぎる語気によって壊されてしまう。そこでこの例文に関しては、“也”を用いることによって、音の聞こえなくなる方向「テクストテーマ」への段階さが示され、静かで物悲しい雰囲気を保ちつつ、「これらの音さえも聞こえなかった」という事実を述べているのである。

他にも“都”の語気は文の雰囲気を壊してしまうため、“也”のほうがよいと思われる例文がある。

(25) 他们知道学生们一定会笑出声儿来。他等着他们发笑，没有旁的办法。奇怪，他们不但没有笑声，连笑意也没有。

(26) 他仿佛忘了自己，而傻傻忽忽的看着一切，听着一切，连自己好似也不认识了。

この二つの例文について、インフォーマント調査では五人の被験者中四人は互換できると答えたが、李彩霞氏だけが“也”のほうが適していると答えた。そこでさらにこれについてなぜそのように思ったのかたずねてみると、大変興味深い回答を得た。すなわち“也”というのは聞き手に静かで物悲しいような

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

感じを持たせるのに対し、“都”はそのような静かな感覚を壊してしまうという。例（25）において、もしも“都”を用いるならば、必ず笑うと思っていた学生達が笑わないはおろか笑顔さえ浮かべることがないということをいぶかしむ話し手の感情が強調されてしまい、笑顔さえないという殺伐とした物寂しい雰囲気は打ち砕かれてしまう。ここでは“也”を用いることによって笑わないはおろか笑顔さえないという事実をその異常でさびしい情景を壊すことなく強調しているのである。例（26）も同様に、“也”によってぼーっとしている「彼」の静かな雰囲気を壊すことなく、「自分のことさえもわからない」ようにみえるという事実を強調しているのである。

このように“也”は文の雰囲気を壊すことなくある「事実」を強調し、“都”はある「認識」や「事実」から連想した「推論」によってそれらを誇張し、より強く強調するという差異を持っている。この基準によって見られる強調や語気の程度の差異もまた、先に述べた仮設を裏付けてくれるものであると考える。

5．総論

前章において、インフォーマント調査によって得られた二つの基準（4.2「絶対的評価」と「相対的評価」、4.3「誇張描写」と「事実描写」）を中心に据えて、“连～都”と“连～也”の差異に関する考察を述べてきたが、必ずしもいずれかの基準によって分類できるわけではない。いずれの基準によっても分類できるものもあれば、いずれの基準によっても分類できないものもあるだろう。さらにこの二つの基準に関してさえ、その間にはっきりとした境界線を引くことは難しい。たとえば例（20）について、ここでは 4.2「強調の程度における差異」で取り上げ、語気副詞“都”の絶対的評価という基準によって説明したが、4.2 の“都”の誇張描写という基準によっても説明することができる。日本兵は実は「銅ボタン」を奪っていったりしていないのかもしれない。ただ価値のない「銅ボタン」まで奪っていったと誇張することにより、日本兵の筆舌に尽くしがたい略奪のひどさを聞き手に訴えようとしたとも考えることができるのである。

結局のところやはり“连～都”と“连～也”の差異は話し手の主観的側面、

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

すなわち取り立てた事例に対しどのような認識を持っているのか、その認識はどの程度のものなのか、さらに何を強調しようとしているのかなどということに大きく影響されるのであり、どのような場合にどちらを使うのかということについて万人に共通する型を作ることは不可能とも言えるくらい困難である。なぜならばまずテクストテーマと前提事例の関連付けは話し手の認識によって異なりうるからであり、また特にテクストテーマは往々にして言語化されないこともあるからである。

しかしこれまでの考察において、仮説は十分に検証できたと考える。なぜならば例文に対する語感がどうして生じるかについて適切な説明を与えられるからである。“连～都”と“连～也”の差異は強調と語気の程度の違いにある。二つの基準のいずれによって分類されても、“都”の語気と強調の程度は強く、言語外に話し手の感情や情報を多く含んでおり積極的に聞き手に訴えかける（仮説D）。逆に“也”の語気と強調の程度は弱く、聞き手になにかを訴えかけることについて消極的である（仮説Y）。現時点ではこのことが唯一“连～都”と“连～也”の明確な差異であると思われる。さらにこれによって、“连～都”と“连～也”に差異をもたらすのは「総括」を表す“都”と「類同」を表す“也”ではなく、語気副詞としての“都”と“也”の作用であると確信する。

6．おわりに

日本にも中国語における“连～都”と“连～也”と同じような言葉がある。“连～都”と“连～也”を翻訳する際に使われる取り立て助詞の「さえ」「まで」などである。生まれてから二十年以上ずっと日本で暮らし、日本語を話しているにもかかわらず、「さえ」と「まで」の違いはなにかとたずねられたら、首を傾げるしかない。しかし字面上の意味も含意も全く同じ言葉が二つと存在しているはずがない。日頃我々が意識して使い分けていないだけで必ず何かしらの差異はあるはずである。意味の研究はその微妙な差異を明らかにするところに醍醐味がある。

ただし日常会話のなかでは「さえ」と「まで」を使い間違っても、それを指摘する人はおろか、気づく人さえいないであろう。それほどまでに日常会話に

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

おいて「さえ」と「まで」は本来あるはずの差異を失いつつあるのである。“连～都”と“连～也”も同じであろう。今回ご協力頂いた被験者達はほとんどが中国語の教育に携わっておられる方々であるため、懸命に何かしらの違いを見出そうとしてくださったが、それでもなおどっちでも構わないとする回答が多かったのであるから、一般人に関してはいうまでもないだろう。さらにその差異も話し手の認識の相違や語気の相違といった主観的なものであり、個人によって異なるため、客観的な指標を与えにくい。従って“连～都”と“连～也”の互換問題に関しても、いかなる情況においても、誰が見てもまったく互換ができないという文はないといっても構わないと思われる。主観というのは人の数だけ存在しているからである。話し手がある認識を持っている場合互換できないと思われる文も、話し手の認識が変化すれば、あるいは違う認識を持った話し手からみれば、互換が可能になってしまうからである。本稿の考察過程で日本語訳をつけなかったのは、日本語に於いても中国語に於いても同様の問題がある以上、日本語の「まで」「さえ」と中国語の“都”と“也”が抱えているそれぞれの意味の微妙な差を混同させてしまうことを危惧したものである。

そこで本稿では、“连～都”と“连～也”の互換の問題と意味的差異を論じるにあたって、ある特有の認識のあり方を仮定し、その仮定に従って、独自に考察した“都”と“也”の差異を論じるための二つの基準を用いて考察を進めた。その方法と考察結果について大方の御教示を請うものである。

［参考文献］

马真　1982：〈说“也”〉『中国语文』（1982年第４期）

史锡尧　1990：〈副词“都”语义语用综合考察〉『汉语学习』（1990年第４期）

程美珍　1987：〈关于表示总括全部的“都”〉『语言教学与研究』（1987年第２期）

周小兵　1990：〈汉语“连”字句〉『中国语文』（1990年第４期）

陆俭明　1986：〈周遍性主语句及其他〉『中国语文』（1986年第３期）

鲁晓琨　1992：〈副词“也”的深层语义分析〉『汉语学习』（1992年第４期）

王红　1999：〈副词“都”的语法意义试析〉『汉语学习』（1992年12月第６期）

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

吕叔湘　1999：『现代汉语八百词』（增订本）商务印书馆

朱德熙　1982：『语法讲义』商务印书馆

赵贤州· 黎文琦· 李冬：『简明汉语课本』（下册）上海外语教育出版社

北京语言学院 1980：『基础汉语课本』中华书店

輿水優　1980：『中国語基本語ノート』大修館書店

傳田章　2001：『中国語Ⅱ（’01）』日本放送出版協会

竹島金吾・贾凤池 1975：『中国語作文—その基本と上達法』金星堂

輿水優　1985：〈中国語研究学習双書８〉『中国語の語法の話—中国語文法概論』光生館

寺村秀夫 1991：『日本語のシンクタスと意味Ⅲ』くろしお出版

寺村秀夫 1993：『寺村秀夫論文集Ⅰ－日本語文法論』くろしお出版

橋内武　1999：『ディスコース－談話の織りなす世界』くろしお出版

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

[附表Ⅰ] インフォーマント調査表

1．(骆驼祥子)

① [连一都→连一也]

1. 他的眼陷下去，连脸上那块疤都有些发暗。

2. 现在人也出来，东西也显了原形，连碎砖砌的墙都往下落土，似乎预备着到了雨天便塌倒。

3. 在城里混了这几年了，只落得一身衣服和五块钱；连被褥都混没了！

4. 混它妈的一辈子，连个媳妇都摸不着！

5. 作小买卖，只有五块钱的本钱，而连挑子扁担都得现买，况且哪个买卖谁能挣出嚼谷呢?

6. 谁也不敢招惹，连条野狗都得躲着，临完还是被人欺侮得出不来气！

7. 想起过去的苦处，连自己的丈夫都那样的无情无理，她就咬上了牙。

8. 就是脚下这座大白石桥，也显着异常的空寂，特别的白净，连灯光都有点凄凉。

9. 缩缩着脖，贼似的出入，眼看着脚尖，永远不出声，不花钱，不笑，连坐在车上都象个瘦猴；

10. 祥子急于去找小福子，报告这个连希望都没敢希望过的好消息。

11. 拉着空车走了几步，他觉出由脸到脚都热气围着，连手背上都流了汗。

12. a.就凭自己这样要强，这样规矩，而娶那么个破货，他不能再见人，连死后都没脸见父母！

b.→就凭自己这样要强，这样规矩，而娶那么个破货，他不能再见人，连父母都／也没脸见！

② [连一也→连一都]

1. 出了西直门，真是连一辆车也没遇上：

2. 祥子的心里由乱而空白，连这些声音也没听见：

3. 连小棉袄也脱了，只剩了件小褂，他想飞跑一气，跑忘了一切，摔死也没多大关系！

4. 拉到了，坐车的连一个铜板也没多给。

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

5. 他又进了大院，找住个老邻居探问了一下。没得到什么正确的消息。还不敢失望，连饭也不顾得吃，他想去找二强子；
6. a.什么也没有了，连小福子也入了土！
   b.→什么也没有了，连小福子也／都没有了。
7. 他亲眼看见的，那里连个兵毛儿也没有。
8. 院里又是那么脏臭，连棵青草也没有。
9. 没了，什么都没有了，连个老婆也没有了！
10. 连个寸大的小鱼也逃不出去！
11. 一个车夫，既是一个车夫，便什么也不要作，连娘儿们也不要去粘一粘；

（四世同堂）

③［连一都→连一也］

1. 庚子年的时候，日本兵进城，挨着家儿搜东西，先是要首饰，要表；后来，连铜钮扣都拿走！
2. 连南京都丢了，光你一个人有骨头又怎么样呢?
3. 驴驼脖子上的白霜发出了光，连那路上的带着冰的石子都亮了些。
4. 现在，我们赔了老本，连衣服和被子都丢光了！
5. 连小刘都跟我们来了。
6. 什么都是假的，连国家民族都是假的，只有他的酒饭，女人，衣冠与金钱是真的。
7. 这最繁闹的地带忽然的连车马都没有了。
8. 整个的大地将要变成一张纸，连棵草都没有！
9. 都市的人怕牲口，连个毛驴都怕降服不住。
10. 连我自己的孩子都不认我这个爸爸了。
11. 至于城里的人，有钱的不敢花钱，没钱的连饭都吃不上，谁还买布！
12. “国亡了，诗可以不亡！”他自言自语的说；“不，诗也得亡！连语言文字都可以亡的！”
13. 你为什么作科长；假若你连一句话都不能给我说！
14. 连牛教授都肯这样，何况我们呢?

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

15. 连不大关心国事的祁老人都有点难过了。
16. 他这两天连作梦都梦到逃亡。
17. 作亡国奴才真正是大事，连作梦他都梦见我们打胜仗，或是又丢失了一座城。
18. 她连怎么哭都不会了。
19. 连小羊圈里都有了日本住家，这条大街上应有日本铺子。
20. 连西单牌楼与西四牌楼的肉市与菜市上都没有一个摊子，他只好空着手回来。

④［连一也→连一都］

1. 连日本人也没把事情弄清楚。日本并不象英美那样以政治决定军事，也不象德意那样以军事决定政治。
2. 可要保守秘密呀，连大嫂也别告诉。
3. 这时候，连天佑太太也振作精神，慢慢的走进来。
4. 到家里，谁也没理，他连鞋也没脱，便倒在床上。
5. 连一斤杂拌儿也没给他们俩买来。
6. 连这些也不谈，父子还谈什么呢?
7. 路中间除了赴会的汽车，马车与包月的人力车，没有别的车，也没有行人；连电车也停了。
8. 连这俩小孩子也变了，变成了老人!
9. 谁也没敢回答，连方六也没作声。
10. 他的文化连丝毫的用处也没有!
11. 他知道学生们一定会笑出声儿来。他等着他们发笑，没有旁的办法。奇怪，他们不但没有笑声，连笑意也没有。
12. 两株枣树上连一个叶子也没有了，枝头上蹲着一对缩着脖子的麻雀。
13. 地上是光光的，连一根草也没有，他就那么昏昏的睡去。
14. 河岸上极清静，连个走路的人也没有。
15. 猪肉铺子有时连一块肉也没有。
16. 这封信没头没脑，连下款也没有。

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

17. 他忘了钱先生的话，连一句也不记得。
18. 我们要是守好了，连个鸟儿也看不下去！
19. 连死人也逃不过这一关！
20. 假若英国不帮中国的忙，有朝一日连“英国府”也会被日本炸平的。
21. 这个黑胡子老头儿不会打人，连自己的儿子也不会去打。
22. 李老人根本无意和冠晓荷竞争，所以连副里长也不愿就。
23. 连钱先生这样的老实人也会受刑呢，并且因受刑而反抗呢?
24. 为了看戏，他连命也肯牺牲了，何况那点老规矩呢。
25. 他们不敢公开的骂日本人，连白巡长也不敢骂，因为他到底个官儿。
26. 不光头发胡子是白的，连眉毛也全白了。

比喻表現

⑤[连一都→连一也]

1. 出来进去的又都是漂亮的车，黑漆的黄漆的都一样的油汪汪发光，配着雪白的垫套，连车夫们都感到一些骄傲，仿佛都自居为车夫中的贵族。
2. 屋中连落个针都可以听到，虎妞也咬上牙不敢出声。
3. 这些寒冷的棱角，教人觉得连马路仿佛都削瘦了好些。
4. 忽然的，连那灰色的城墙都好像变成了玻璃，发了光。！
5. 现在他成了英雄，连他的呜嚷呜嚷的声音仿佛都是音乐。
6. 地上是干的，天上没有一点云，空气中没有一点水分，连那远近的小村都仿佛没有一点湿的或暖的气儿，黄的土墙，或黄的篱笆与灰的树干，都是干的· · ·
7. 这时节，连她都仿佛感觉到亡了国也有别扭的地方！
8. 进了屋门，连小顺儿似乎都感到点不安，他不敢再出声了。
9. 倒好像连日本人都不屑于打他似的。
10. 连小顺儿和妞子似乎都感到了大难临头。
11. 他说得是那么天真，那么热诚，连他的呜嚷的声音似乎都很悦耳，瑞宣不能再楞着。
12. 阳光很好，可是没有多少热力，连树影人影都那么淡淡的，枯小的，象是

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

被月光照射出来的。

13. 看这一家子，连看回电影都好像犯什么罪似的！

⑥[连一也→连一都]

1. 他仿佛忘了自己，而傻傻忽忽的看着一切，听着一切，连自己好似也不认识了。
2. 连老头子骂人也似乎更痛快而慈善一些。
3. 他急忙拉起车走出去，连生气似乎也忘了，因为他一向没见过这样的事，忽然遇到头上，他简直有点发晕。
4. 天似乎已晴，可是灰渌渌的看不甚清，连雪上也有一层很淡的灰影似的。
5. 他向旁边的一条很背静的胡同指了指，我就进了胡同，心里直发毛咕，胡同里直仿佛连条狗也没有。
6. 现在连他自己似乎也忘了他应当被称为侯爷。
7. 他似乎连那个文化也不应责备。

[附表Ⅱ]

インフォーマント調査結果一覧表

表中の記号は次の意味を表す。

(1) 互換できない場合 …×
(2) 互換できる場合で意味があまり変わらない場合 …○
(3) 互換できるが“都”のほうがふさわしい場合 …都
(4) 互換できるが“也”のほうがふさわしい場合 …也
(5) 無回答 …？

李氏：李炜东氏　趙氏：赵忠氏　李さん：李彩霞さん
張氏：张宏氏　劉さん：刘萍さん　王さん：王雅宁さん

①『骆驼祥子』　[连一都→连一也]

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

	李氏	趙氏	李さん	張氏	劉さん	王さん
1	都	都	○	○	○	都
2	都	都	○	○	○	×
3	都	×	○	×	○	都
4	○	都	○	×	○	○
5	都	×	○	×	○	○
6	都	×	○	×	○	○
7	都	都	○	○	○	×
8	×	○	○	×	○	×
9	都	×	×	×	×	×
10	○	○	○	×	○	○
11	○	都	○	都	○	×
12a	×	都	×	都	○	○
12b	○	都	○	都	○	○

②『駱駝祥子』　[連ー也→連ー都]

	李氏	趙氏	李さん	張氏	劉さん	王さん
1	○	○	○	都	○	○
2	也	○	○	都	○	○
3	○	也	○	○	×	○
4	○	也	○	也	○	×
5	○	○	○	○	○	×
6a	○	也	都	×	○	×
6b	都	都	?	都	○	?
7	○	也	○	×	○	○
8	○	○	○	○	○	○
9	也	×	○	○	○	○

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

10	○	○	○	○	○	○
11	○	也	都	×	×	×

③『四世同堂』　［連一都→連一也］

	李氏	趙氏	李さん	張氏	劉さん	王さん
1	都	都	都	×	○	×
2	×	都	○	×	×	×
3	○	都	○	×	○	×
4	○	都	○	都	○	×
5	○	都	○	×	○	×
6	都	都	○	○	○	○
7	○	○	○	都	○	○
8	○	都	○	×	○	○
9	都	○	○	×	○	×
10	都	○	○	×	○	×
11	○	都	○	○	○	×
12	都	都	○	×	○	×
13	都	都	○	○	○	×
14	○	都	○	×	○	×
15	○	都	○	×	○	×
16	都	○	○	×	○	×
17	都	○	○	×	○	×
18	○	都	○	×	×	×
19	○	都	○	○	×	×
20	都	都	都	×	×	×

④『四世同堂』　［連一也→連一都］

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

	李氏	趙氏	李さん	張氏	劉さん	王さん
1	也	也	○	○	○	×
2	也	也	○	也	○	○
3	也	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○
5	○	○	○	○	○	○
6	○	○	○	都	○	○
7	○	○	○	○	○	○
8	○	○	○	○	○	○
9	○	也	○	都	○	○
10	○	也	○	○	○	○
11	○	○	也	○	○	○
12	○	也	○	都	○	○
13	○	○	○	○	○	○
14	○	○	○	○	○	○
15	○	也	○	○	○	○
16	○	○	○	○	○	○
17	○	○	○	○	○	○
18	○	×	○	○	○	×
19	○	也	○	○	○	×
20	○	○	○	○	×	○
21	×	○	○	○	○	○
22	×	○	○	○	×	×
23	○	也	也	○	○	○
24	○	○	○	○	○	○
25	也	也	○	○	○	×
26	○	也	也	○	○	○

NII-Electronic Library Service

Kanazawa University

⑤比喩表現　［連ー都→連ー也］

	李氏	趙氏	李さん	張氏	劉さん	王さん
1	○	都	○	○	○	×
2	都	都	○	○	○	×
3	○	都	○	○	○	○
4	○	都	○	○	○	×
5	○	都	都	×	○	×
6	○	都	○	○	○	○
7	○	都	○	○	○	×
8	○	○	○	○	○	×
9	○	○	○	○	○	×
10	○	○	都	×	○	×
11	○	×	都	×	○	×
12	○	○	○	○	○	×
13	○	也	○	○	○	×

⑥比喩表現　［連ー也→連ー都］

	李氏	趙さん	李さん	張氏	劉さん	王さん
1	○	○	也	○	○	×
2	○	○	○	○	○	×
3	也	也	○	○	○	○
4	也	也	也	○	○	○
5	○	也	○	○	○	○
6	○	也	○	○	○	○
7	○	也	○	○	○	○

NII-Electronic Library Service